

令和 3 年度国臨協関信支部第 3 回研修会～質疑応答編～

研修会参加アンケートに寄せられた質問に対してお答えいたします。

第 2 部 「SARS-CoV-2 検査のための検体採取方法について」

Q.ドライブスルーで検体採取を行う場合の説明において、綿棒が挿入できない場合は医師に連絡するとありましたが、原因は何が考えられますか。

A.鼻腔が狭く、綿棒の挿入が困難な場合があります。

無理に挿入すると鼻腔内で綿棒が折れることや、鼻出血を誘発するため慎重に行うようにしています。

Q.検体採取場所から検査室や保管場所までの動線や発熱外来への患者誘導において注意点なども知りたい。

A.検体搬送時においては最も注意すべきことは検体の漏出（外部への曝露）だと考えています。そのため当院では綿棒チューブ（一次容器）と専用搬送容器（二次容器）を用いた二重包装を用いることにより検体の漏出が起きないようにしています。

また発熱外来への誘導に関しましては案内係の事務員を配置することにより円滑な誘導ができるよう工夫をしています。

Q.ドライブスルーでの採取の場合、患者誤認のリスクが高いと思います。どのような方法でリスクを低減しているのでしょうか。

A.ドライブスルー検査を行う場合は、予め患者の乗車してくる自動車の車種と色、ナンバーを聴取し、来院時に患者が特定できるようにしています。また案内係の事務員と検体採取者の 2 名がそれぞれ本人確認を行うダブルチェックの体制をとることにより患者誤認を防ぐよう工夫をしています。

以上